

地域包括支援センターだより

ええげえし

「ええげえし」＝「相返し」秩父地域の方言で「助け合う・支え合う」ことを意味します。

第19号（年4回発行）

H26. 12. 1発行

《編集発行》

皆野町地域包括支援センター

皆野町大字皆野1420-1

電話 62-1233

題字：書道クラブ「若竹」 小笠原由紀 様

10月～『地域ケア会議』始動 (地域で高齢者を支える会議)

目標：年をとっても住み慣れた地域（在宅）で生活できる

目的：①高齢者個人に対する支援の充実 ②地域の資源の活用

（関係団体の合議体による協議：月1回程度）

行政・医療機関・薬局・介護サービス提供事業所・居宅介護支援事業所・
社会福祉協議会・シルバー人材センター・民生委員・ボランティア組織・
民間企業など

（関係者）

医療従事者：医師・保健師・看護師・薬剤師・リハビリテーション職
介護従事者：介護福祉士・リハビリテーション職・訪問介護員（ヘルパー）
相談援助者：精神保健福祉士・社会福祉士・介護支援専門員
地域協力者：民生委員・生活支援員・ボランティア・民間企業従事者

温か【ほんわか交流会】

11月5日（水）、社会福祉協議会主催による【第2回ほんわか交流会】が、総合センターにて開かれました。75歳以上のひとり暮らしの方を対象に95名の参加がありました。会は手作りのものばかり。お花は庭で咲いたもの、お昼は手作りのすいとん、余興は税務課職員佐々木さんの歌、宮原先生（元町文化財保護審議委員）の町に関する歴史〇×クイズ、明星・国神保育園のこどもたちのお歌や体操、お土産は手芸品や絵手紙と、趣向を凝らした心温まるものとなりました。ひとりだけど、ひとりじゃない、誰もがどこかで人や地域とつながっている、つながると明るい笑顔になれる、会の名とおり、気持ちがほんわかするものでした。



【写真】左：こどもたちのピアノ演奏、じょうずにできました。

右：語らいのひとコマ、おしゃべりも弾み、笑みがこぼれていました。

<お知らせ：その1>

「介護者のつどい」について

日 時：平成26年12月17日（水）午前10時～11時30分

場 所：皆野町役場 2階 和室

内 容：「アロマ教室」と「語らい」

講 師：アロマケアセラピスト 野澤規恵 先生

参加費：無料

定 員：10名

申込み・問い合わせ：皆野町地域包括支援センター （健康福祉課内）

電話62-1233

<お知らせ：その2>

★地域でいきいき生活している高齢の方の情報をお待ちしています！！★
自薦・他薦を問いません。

★地域活動情報を募集しています！！★

地域の寄合や行事など活動している団体を把握しています。地域社会の繋がりを通じて介護予防に一役買うような活動をぜひおしえてください。

（問合せ） 皆野町地域包括支援センター （健康福祉課内）

TEL 62-1233（内線 115・116） FAX 62-2791

<お知らせ：その3>

福祉用具の寄付をいただきました。ありがとうございます。

①町内匿名の方 ⇒ 歩行器（押し車）1台

②株式会社 福祉の街 ⇒ ポータブルトイレ（未使用品）1台

地域包括支援センターはこんな仕事をしています

地域包括支援センターは、高齢者のみなさんが住み慣れたところで安心して自立した生活が続けられるようにお手伝いします。

介護保険サービスの利用方法、介護予防、認知症相談、保健・障害者・高齢者福祉、権利擁護、そのほか生活に関する不安や悩みなど
いろいろな相談に応じます。気軽にお電話・ご来庁ください。

高齢者のよろず相談所

皆野町地域包括支援センター（健康福祉課内）

電話 62-1233 内線 115・116

【編集後記】

年の瀬。みなさん、セカセカなのに変な話題ですみません。ここだけの話。面白いTVドラマがあるんです。普段、TVドラマは見ない私。それを虜にしているのが、『お客が希望する過去の時間に戻して、やり直してできるタクシー』の物語。人生はたくさん分岐、つまり選択を迫られます。進学、就職、結婚など人生を左右する重大な選択～食事、着る物、出かけ先など日頃の身近な選択。みなさんも「あー、あのとき、あっちを選んでいれば、こっちを選んでいれば・・・(悔)」なんていうこと、心当たりがあるのでは・・・。

でも、どの主人公にも共通しているのは、戻って違う選択してもうまくいかないこと。(何度戻っても)「人生なんてこんなものか。」とクスクスっと半ば後悔をあきらめさせてくれるのです。

あっ、次号は記念の第20号。さてと、どんな記事を選ぼうかなあ～。(迷)

介護支援専門員 新井 康弘